

# トルコ大地震 死者1万2000人 発生から72時間経過



トルコで発生した地震の震源(丸印)。水色が本震、オレンジ色は余震 =米地質調査所(USGS)のウェブサイト(日本時間6日午後6時現在)より

(2023年2月9日 NHK NEWS WEB)  
 ※日本とトルコの時差は6時間・原則日本時間で表記します)  
 トルコ南部のシリア国境近くで日本時間6日未明に発生したマグニチュード7.8の地震やその後も続く大きな揺れによって、トルコ南部や隣国のシリアでは広い範囲で多数の建物が倒壊しました。日本

このほか、シリアの反政府勢力の支配地域で救助活動を行う団体によりますと、こうした地域で少なくとも1730人が死亡したと報告しています。  
 これらの発表によりますと、一連の地震による死者はトルコとシリアの両国をあわせて1万2000人以上にのぼっています。  
 国連でシリアを担当する高官らが8日、オンラインで会見を開き、シリアに駐在するベトナムリ調整官は、今

時間の9日午前10時すぎで、生存率が急激に下がると言われる、発生から72時間となるのを前に現地では懸命な捜索・救助活動が続いています。  
 今回の地震で甚大な被害を受けたトルコ南部カフラムマラシユでは、日本の国際緊急援助隊の先発隊18人が現地入りし、8日は、壊れた4階建ての建物に10人以上が取り残されているという情報をもとに、生存者がいないか確認を進めていました。  
 カフラムマラシユでは、いたるところで建物が倒壊し、道路が塞がれていることも多く、救助活動の大きな妨げとなっています。  
 国際緊急援助隊救助チームの山本英昭団長は、「非常に大きな地震で国際的な支援が必要だ。余震もあり厳しい状況だが、被災者に寄り添った支援をしていきたい」と話していました。  
 日本時間の9日午前5時の時点で、トルコ政府の発表では、これまでにトルコ国内で9057人が死亡し、5万2900人以上がけがをしています。  
 また、シリアの保健省によりますと、シリアでは、北西部を中心にこれまでに1262人が死亡したということです。

## シリア被災者 人口の半数 1000万人超か

多くの自然災害からの学びを活かし、「信頼できる機関への義援金」で被災地を支援しましょう。

現在日本から寄付できる団体の一部をご紹介します。詳細は各団体HPなどでお確かめください。

- 2023年トルコ・シリア地震救援金 (日本赤十字社)
- トルコ・シリア大地震 緊急募金 (国連UNHCR協会)
- トルコ地震 緊急支援募金 (Yahoo!基金・Tポイント寄付ok)
- 自然災害緊急募金 (日本ユニセフ協会)
- 緊急チーム募金 (国境なき医師団)

このうち震源に近いシリア北西部には、アサド政権の攻撃から逃れた人たちが暮らすキャンプなどがあり、こうした地域に支援を届ける方法は限られていると、危機感を示しました。  
 またシリアの人道問題を担当するハティ地域人道調整官は「最も重要なのは、困難な状況の中で、支援を必要としている人たちに届けることだ」と述べ、早ければ9日にもトルコ経由で食料や医薬品といった物資の搬入を再開したい考えを示しました。  
 そしてアサド政権の協力を得て被災者を支援することについて実現に向け意欲を示す一方で、「さまざまな関係者の間で複数の調整が必要だ。シリア政府軍が展開する地域での支援活動は容易ではない」と厳しい見通しを示しました。  
 WHOシリア事務所の代表は、地震の影響で被災地に近づくことが困難になっているとした上で「医療システムはこの12年間ですでに被害を受けていたうえ、さらに地震でひび迫っている」と述べ、内戦でぜい弱となっている現地の医療システムに懸念を示しました。(一部要約は文責による)



MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め  
 復興支援  
 かけつけきたしんぶん

「すけさきた」とは  
 宮城県登米市あたるの言葉で  
 「ボランティアに来たよ」という  
 意味である

